

公立大学法人 福岡女子大学広報

FUKUOKA WOMEN'S UNIVERSITY

創刊100号記念

特集

伝統を守り、革新に挑む。

～福岡女子大学のこれまでとこれから～

- 福岡県女子専門学校
第26回（昭和26年）卒業生 座談会
「あらゆるものが新鮮で、
刺激的だった女専時代」
- 学長インタビュー
「100周年に向けた教育改革
～多様性を学び、教育で一流の大学へ～」



女専校舎全景（昭和初期、須崎周辺）



女専時代の校門周辺の様子



女専時代のアルバムより（昭和初期）

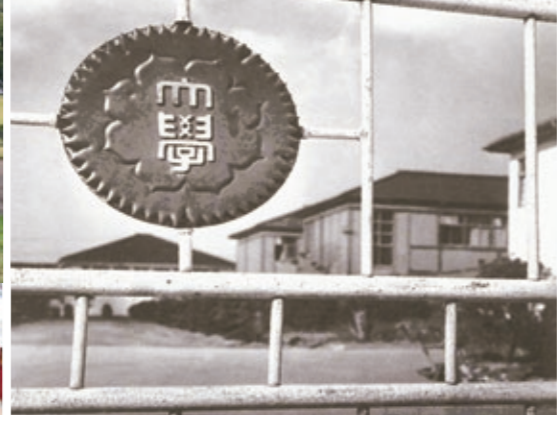


福岡女子大学全景（2017年）

創刊100号記念

今昔、福岡女子大学。

～100周年へのあゆみ～



創刊100号記念 特集

伝統を守り、革新に挑む。

～福岡女子大学のこれまでとこれから～

福岡女子大学は1923年、
日本初の公立女子専門学校として創立し、
戦前戦後の激動の時代の中、
女子教育のパイオニアとして多くの女性リーダーを
輩出してきました。

2011年、グローバル化に向けて組織を一新。
1学部3学科の国際文理学部に改組し、
文理統合教育、全寮制、実践的な英語教育など、
新たな時代に合わせた大学改革に取り組んでいます。



CONTENTS

- 01 九州北部豪雨被災地支援ボランティア参加と募金活動
- 02-10 **特集** 創刊100号記念
 - 02 伝統を守り、革新に挑む。～福岡女子大学のこれまでとこれから～
 - 02 ・福岡女子大学94年のあゆみ
 - 03-04 ・福岡県女子専門学校 第26回(昭和26年)卒業生座談会
 - 05-08 ・学長インタビュー
 - 09-10 ・国際文理学部へ改組以降の改革／創立100周年事業とその後の構想
- 11-17 **FWU NEWS**
 - 11-12 **events**
 - ・2017夏のオープンキャンパス ・広報担当レポート／学生広報サポーターレポート
 - 13-14 **international**
 - ・2017年秋季出発交換留学出発式 ・EAT2017プログラム／EAT2017参加学生レポート
 - ・WJC自主研究発表会および2017年度春学期WJC閉講式／WJC留学生インタビュー
 - ・CASEUF国際教育サマープログラム
 - 15-16 **outreach**
 - ・学び直し大学院プログラム第3期 ・生涯学習カレッジ2017 ・第二回福岡女子大学新能
 - ・2017年度福岡女子大学アートマネジメントアドバンス講座 ・国連講演会 ・第25回香住丘校区夏まつり
 - 17 **academic life**
 - ・日本繊維製品消費科学会 学会賞論文賞受賞 ・第30回初心者のための九州フランス語コンクール入賞
 - ・読売女流書法展「秀逸」受賞
- 18 **INFORMATION**
 - ・キャンパス完全禁煙宣言 ・「福岡女子大学 国際化推進基金」ご寄附へのお礼とお願い



公立大学法人
福岡女子大学
FUKUOKA WOMEN'S UNIVERSITY
No.100 Autumn 2017

九州北部豪雨被災地支援ボランティア参加と募金活動の実施

学外募金活動 (JR香椎駅にて)

7月5日(水)からの九州北部地方における断続的な大雨により、甚大な被害を受けた方々への支援のために、本学学生3名が福岡県及び関係団体等が行っている「平成29年九州北部豪雨被災地支援ボランティア」に参加しました。現地では被災家屋から使用できなくなった家財や土砂の搬出作業を担当し、被災地の現状を間近に見て、学生たちも継続的な支援の必要性を実感しました。また、学生・教職員による学内での募金活動も行っており、8月2日(水)には、JR香椎駅前広場で学外募金活動を実施しました。学生・教職員が集めた募金は、福岡県を経由し、被災地に届ける予定です。募金活動に協力してくださった皆さまにお礼申し上げます。

学内募金活動 (Nanの木にて)

学外募金活動 (JR香椎駅にて)

● 福岡女子大学94年のあゆみ

大正12年(1923年) 4月17日、日本初の公立女専、福岡県立女子専門学校開校
 関東大震災

大正14年(1925年) 福岡県女子専門学校と改称
 大正15年(1926年) 大正天皇崩御、元号を昭和に改元
 昭和2年(1927年) 女専卒業生同窓会「筑紫海会」発会
 昭和12年(1937年) 須崎校舎が講堂、体育館を残し全焼
 昭和16年(1941年) 太平洋戦争開戦
 昭和20年(1945年) 6月19日の福岡空襲で校舎全焼
 昭和21年(1946年) 4月、国語科、数学科、生活科の設置
 昭和22年(1947年) 学校、在学生、同窓生一体の昇格運動
 昭和25年(1950年) 4月、福岡女子大学開学
 昭和26年(1951年) 旧制香椎中学あとに移転
 香椎新学舎第一年度分完成

昭和28年(1953年) 11月7日、香椎(香住ヶ丘)移転完了
 昭和29年(1954年) 文学部と家政学部の2学部体制に
 昭和64年(1989年) 昭和大皇崩御、元号を平成に改元
 平成5年(1993年) 大学院文学研究科修士課程設置
 平成7年(1995年) 家政学部を人間環境学部へ改組
 阪神・淡路大震災／地下鉄サリン事件

平成9年(1997年) 大学院文学研究科英文学専攻
 博士後期課程を設置
 平成12年(2000年) 大学院人間環境学研究科修士課程を設置
 平成18年(2006年) 公立大学法人福岡女子大学へ
 平成23年(2011年) 国際文理学部
 (国際教養学科、環境科学科、食・健康学科)開設
 東日本大震災

平成26年(2014年) 新キャンパス(第一期工事)完成
 平成27年(2015年) 大学院人文社会科学研究科修士課程
 人間環境科学科修士課程を設置
 平成28年(2016年) 新キャンパス(第二期工事)完成
 熊本地震
 平成29年(2017年) 大学院博士後期課程開設
 新キャンパス(第三期工事)完成

福岡県女子専門学校
第26回(昭和26年)
卒業生座談会

あらゆることが 新鮮で、 刺激的だった 女専時代

昭和23年に福岡県女子専門学校
(以下、女専)の生活科に入学。
戦後の混乱期に本学で学ばれた
卒業生3名の方にお集りいただき、
当時の教育の様子や思い出深い
エピソードなどを
振り返っていただきました。



甲斐 悦江さん
福岡県福岡市出身
女専卒業後は放送局へ。現在もボランティアや
女性団体の活動に携わる



浅山 悦子さん
中国・天津市出身
女専卒業後は地元百貨店に就職。クラス委員を
務めるなど同窓会活動に尽力



瓜生 桂子さん
福岡県福岡市出身
女専から福岡女子大学を経て英語教師に。著書に
「豆つぶ先生の放課後」等



敗戦がもたらした 「真実」への探究心

最初に、女専に進学された理由
をお聞かせいただけますか。
瓜生 敗戦で世の中の価値観が大
きく変わり、納得できないことが多
かったので、これは自分でしっかり
確かめなければいけないと思いま
してね。そんな探究心から女専への
進学を決めました。
甲斐 私は6歳上に姉がいますが、
姉たちの時代は、女学校を卒業し
たら良妻賢母になるためのいわゆ
る花嫁学校しか行くところがあり
ませんでした。そこには行きた
くなかったし、私も真実を知りたい
気持ちがあつて女専に進んだんだ
と思います。



浅山 私は天津で女学校時代を過
しましたが、学徒動員などでほとん
ど勉強できなかったの、もっと学
びたいという気持ちがありました。
たまたま兄が福岡にいて、進学を勧
めてくれたので受験したのです。校
舎を空襲で焼失していましたから、
入学試験は九州大学医学部の講堂で
あったんですよ。
生活科ではどのようなことを学
ばれたのですか？
甲斐 倫理や哲学などの教養科目に
加えて、食品化学、調理、衣服、生
理学といった専門科目がありました。
浅山 家政学部の前身のような学
科です。でも、今は細分化されてい
るでしょ。それをまとめたような学
科でしたから勉強は大変でしたね。
甲斐 それに、3年間で終わらせ
なければならなかったから、50分1
コマの授業が一日に6時間とか7時
限行われていましたよ。

バザーで使う 調味料を調達に闇市へ

女子大への「昇格運動」には関
わっていらっしゃいましたか。
甲斐 私たちは1年生でしたから、
運動と言うほどの働きはしていま
せん。でもバザーは参加しましたね。

充実した環境で学べる ことに感謝して 今日を生きてほしい

最後に、福岡女子大学で学んで
いる皆さんにメッセージをお願いし
ます。
浅山 私たちの時代は、自分で求め
なければ何も得られませんでしたけ
ど、今はとても恵まれた環境にあり
ますよね。ここで学べることを幸せ
に思つて頑張ってください。
甲斐 女子大や女性リーダーなどと
区別して語られるのは、まだ男性と
同じように認められていないんだと
思います。女性リーダーとして社会
に貢献するのは大変なことだと思
いますが、頑張つてほしいですね。
瓜生 生きている一瞬一瞬が人生で
す。平和は自然にあるものではなく、
それを守るために、どこかで誰かが
頑張ってくれているんだと思いま
す。平和の中で学べることに感謝し
なければいけませんね。

新しい価値感に触れ、 社会に目覚める

浅山 授業料の値上げに反対して、
ストを起こしたこともありまして。
授業をボイコットしたんです。
甲斐 街頭で署名活動もしましたよ。
浅山 当時、文科(国語科)の3年生
に演説がとて上手な方がいらっし
やつてね。人を惹き付けるような話し
方で、女専で学べばあんな物言いが
できるよくなるのかと驚きました。
瓜生 当時はそんな一つひとつの体
験が感動でしたよ。
甲斐 そうね。私はのちに九大の教
授になられた具島兼三郎先生の講話

卒業後は進学、就職、 それぞれの道へ

働く女性も増えたと思います
が、皆さん卒業後はどのような道に
進まれたのですか。
瓜生 私は女専を卒業後、女子大の
2年生に編入し、さらに3年間本学
で学びました。大学卒業後は英語教
師になりましたが、社会進出などと
いう意識はなくて、生きていくため
に教師の道を選んだ感じでした。
浅山 でも、時代は女性が働くこと
を望んでいたみたいでしたね。私は
岩田屋百貨店に就職しましたが、本
学の先輩方もたくさん勤めていらっ
しゃいました。
甲斐 私は民間の放送局(現RKB
毎日放送)に就職し、女性や子ども
向けの番組制作に関わっていました
。10年勤めて辞めましたが、その



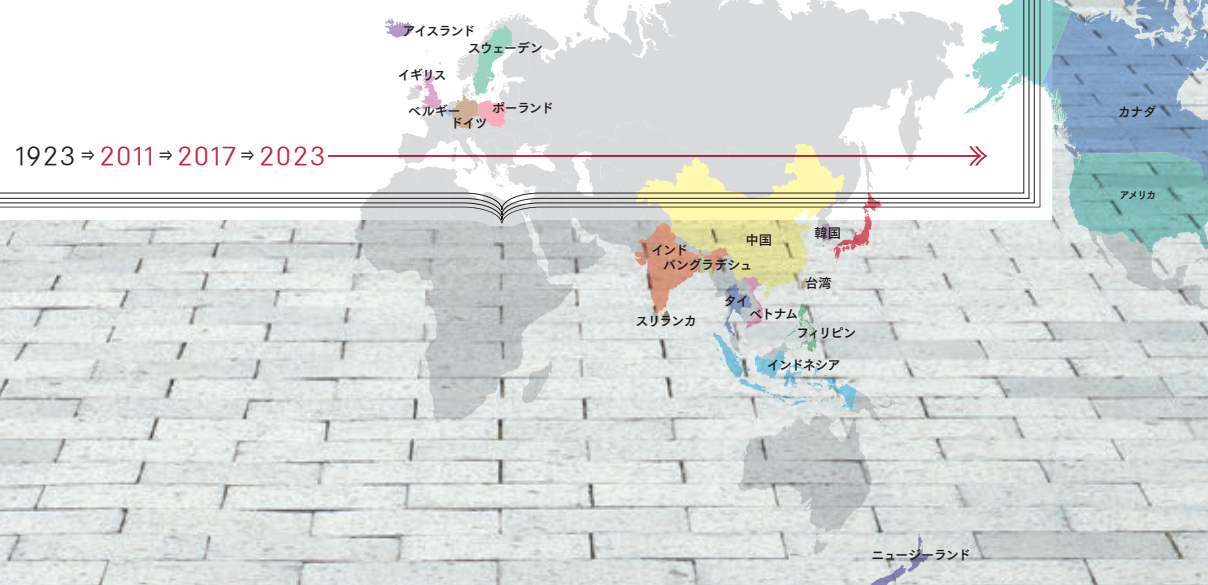
(本日はありがとうございました)

100周年に向けた教育改革

～多様性を学び、教育で一流の大学へ～



2023年の100周年に向けて、近年、教育改革に取り組み、目覚ましい進化を遂げてきた福岡女子大学。その教育改革を牽引してきた梶山千里学長に、これまでの改革を総括してもらおうとともに、100周年に向けた今後の取り組みについてお聞きしました。



多様性に触れ、未知の世界を知ることが、自己改革につながる

—— 学長として就任されて以来、
—— 大学の教育改革に取り組んで来ましたが、これまでの改革をどのように評価していらっしゃいますか。

2011年に従来の学部を再編し、「国際」と「教養」を重視した1学部3学科の国際文学部に改組しました。留学生と日本人学生と一緒に暮らす全寮制教育や、学生の国際性を育むプログラムなど、個々の取り組みの成果が出てきていますが、私はもっと大きな捉え方をしています。

言語や民族、文化が異なる留学生と交流し、多様な価値観に触れることは、日本の学生にとって、これまで経験したことのない未知の世界と遭遇することになり、そこから大きな感動が生まれます。この感動こそが、より自分を成長させるエネルギーになるはずですが、これが、今よく言われている「教育のイノベーション」です。

本学が国際性を柱とした教育制度に変更したことで、学生が得られる体験も豊かになりました。一人ひとり異なる体験をすることによって多

本学がこれからも進化し続けるために、学生・教職員の皆さんの一層の努力を期待します。

梶山 千里
理事長・学長



—— 多様性を学ぶことは、学生自身のイノベーション、自己改革につながっていると思っています。

—— 英語教育についてはどのようにお考えでしょうか。

国際教育を掲げる上で、英語教育は重要です。私は英語を学ぶのではなく、英語を使ってさまざまなことを学んでほしいと思っています。そのため新しい英語学習法の一つがアカデミックイングリッシュプログラムです。これは英語を「学ぶに必要の道具」と捉え、全ての学生の必修科目にしています。少人数習熟度別クラスを編成し、プログラムの終了時には、英語で行われる授業の受講や英語による15分の口頭発表、2,000文字の小論文の作成ができるようになることを目標にしています。

また、寮内では、毎朝1時間日本語を使用しない「イングリッシュタイム」や、月曜日は24時間、寮内で日本語を使わない「イングリッシュ・デイ」といったプログラムを実施し、英語しか使えない環境に身を置くことで学生の英語力の向上を図っています。

高い水準の大学だけを厳選して交流協定を結び、海外留学を推進

—— 国際交流のネットワークも広がっていますね。

19カ国・地域 30の大学(学部)と交流協定を結んでおり、卒業までに約7割の学生が2週間から1年間の海外留学を経験しています。また、質の高い学びを得るため、協定を結ぶ大学も厳選しています。本学のように水準の高い大学と交流協定を結んでいる大学はそれほどないと思います。一方で、さまざまな理由で留学が難しい学生もいますので、そうした学生には、日本にいながら海外留学を疑似体験できる1泊2日の「イングリッシュ・ビレッジ」を用意しています。もちろん、その2日間は英語漬けです。



短期留学生受け入れプログラム



海外体験学習プログラム



学生がこのようなプログラムを活用することで、どのように成長してほしいと思われていますか。

それは、学生自身が理解し、解を出すことで私が言うことではありません。レストランに例えれば、私はメニューを見ているだけ。それを見て何を選ぶかは学生の皆さんです。もちろん、私の中には理想とする大学の学生像があります。でもそれを、学生の皆さんに強制したくないのです。私が考える教育の自己改革は、人から言われてするものではなく、自分で確立するものではないです。覚悟の問題です。自分で考えてベストな進路を選択してほしいです。中には、自分でメニューをつくってくる学生もいますよ。「国連女性の地位委員会」のインターンに本学の学生が2年続けて参加しているのが良い例です。自分の意見を持って、行動できる学生も育っています。

※国連女性の地位委員会(CSW)は、国際問題、女性問題、国連に関心を持つ、あるいは将来その方面で活躍したいと願う若い女性を支援する目的で、毎年ニューヨークの国連本部で開催されています。

文理統合教育とは、文系理系にこだわらず専門分野を学ぶこと

今年3月に発表されたイギリスの教育専門誌「タイムズハイヤーエデュケーション」による「THE世界大学ランキング 日本版2017」の総合ランキングで48位、国際性のランキングで7位に選ばれました。これは、教育改革による成果だと思えますがいかがでしょうか。ランキングが上がったのは、個々の努力が結集した結果だと思えます。私は学生の皆さんが学びやすい環境を整えただけで、実際に動いたのは学生や教職員の皆さんです。ランキングが上がってほしいとの思いはありますが、ランキングを上げることが教育改革の目標ではありません。敢えて厳しいことを言うならば、結果だけ見て一喜一憂するのではなく、学生と教職員の皆さんでこの改革を継続できる制度と内容にする努力をしてほしいと思います。

2018年度から人間力を育む 感性の授業もスタート

学長は、感性を大切にされていますが、学長が思われる感性とはどのようなものでしょうか。

「哲学とは何か」と、哲学者の鷲田清一さんに聞いたことがありますが、鷲田さんは「悪いことではなく、良いことを考えていれば、それが哲学ですよ」と言われて、私はなるほどと納得しました。私はよく「感性とは何ですか」と聞かれるのですが、これも単純な言葉にすれば、「人を癒す、人に嫌な思いをさせない」とです。電車の中で化粧をしたり、食べたりしている人を見てあまり良い気持ちはしませんよね。優先座席に若い人が座っているのを見ても、良い気持ちはしない。そんな行動を不快に思ったり、恥ずかしいと思う心を養いなさいと言っています。

以前、図書館で使った椅子を元に戻さない学生たちに注意したら、次の日からは100%椅子を元に戻すようになりました。「しつけ」ができていないのです。しつけさえすれば、それに対応する能力はあるわけです。感性を育むためには、教養

今後、文理統合教育をどのように展開していきたいと思っておりますか。

文理統合教育とは、文系が理系を学び、理系が文系を学ぶだけではありません。文系が理系を学ぶこともあれば、理系が理系を学ぶこともあるでしょう。要は自分の知らないことを知ること。未知との遭遇です。私は文理統合の切り口も多様性だと捉えています。そう考えれば、文理統合型の勉強をどのようにすればよいか自ずとわかってくるはずですよ。専門分野以外の知識を得ることで、自分自身の教育のイノベーションにつながるアイデアを生み出すことができるかもしれません。偶然出会うのではなく、出会う努力をしてほしい。そのためには多くのことを経験して、死に物狂いで取り組まなければなりません。教養が行き着くところは、創造性であり感性です。

教育の次は研究へ。 将来は福岡女子大学を研究する大学に

最後に100周年に向けて、今後どのような取り組みを考えていらっしゃるのかお聞かせください。現在、教育で一流大学になること

や創造性も必要ですが、しつけも必要だと思っています。

これからの時代、感性の教育が必要とのことですが、なぜ必要なのでしょう。

感性の教育は、人の心を傷つけない、人の心を大切にすると「心の教育」です。昔は、大学に教養部というものがあつた。その中で人間性や感性を磨いていきました。今はその部分の教育が疎かになっています。感性をたどれば、哲学や倫理学に行き着きます。こうした分野を学ぶことで、人間力や感性を発揮することができますように思います。

また、本学は女性リーダーの育成を掲げていますが、感性のない人、創造性がない人は、リーダーになれなくてもトップリーダーにはなれません。トップリーダーは、人が歩いたことがない道を歩まなければなりません。ですから、新しいことを考えられる人でなければならぬのです。そこには感性や創造性が必要です。このようなことから、今の学生に感性の教育は大切だと思っています。

来年から感性の授業がスタートしますが、どのような授業なのでしょう。

目標に掲げていますが、将来は研究する大学であつてほしいと思っています。教育の次は研究です。大学院は良い研究をしているところに良い学生が集まります。研究してなければ集まりません。先生方が良い研究をしてその成果を情報として発信する。それが、しっかりと良い大学院を作る源になるのです。そのためには教員は、独創性のある研究をする必要があります。

100周年の記念事業は、教育改革の取り組みというより、研究ができやすい環境をつくることを目的・目標にしています。その取り組みの一つが、2つのセンターの設立です。文系分野においては、「女性リーダーシップセンター」、理系分野においては、「国際フードスタディセンター」「両センターとも仮称」。この2つのセンターに教員を配置して文系、理系、各々の研究を推進していこうと考えています。

また、文理統合型学部として国際文学部を設立しましたが、まだ文理統合教育を十分に確立できていません。ですから、2023年に向けてさらに充実させたいと思っています。併せて、教職員が歩調を合わせ業務を遂行する教職協働の仕組みもしっかりと構築していきます。

本学には現在も感性の授業がありますが、音楽や絵画といった芸術分野を感性と捉えた授業です。芸術は感性の一部ですが、私が思っている感性の授業はあくまで心の授業。人間力を養う授業です。

感性の授業を始めるにあたっては、私自ら九州大学の感性の授業を聴講し、約4年の歳月をかけて準備をしてきました。具体的な授業内容はこれから決めますが、カリキュラムには、和食や環境における感性の授業も取り入れて、本学の特長を打ち出したいと考えています。



それから、2011年度は、本学は新しい大学ができたわけではなく、古い組織を入れ替えて教育改革を行いましたから、そこで生じた歪みも100周年で一掃する予定です。

最後に楽しい話もしましょう。本学に女子大オーケストラを結成しようと考えています。女子大でオーケストラをつくる取り組みは、これまでにない発想です。九州産業大学や九州大学に協力いただき、60名程度の楽器編成にしたいと考えています。100名のフルオーケストラを抱える九大のようにはいきませんが、20名程度は本学の学生で構成できればと考えています。練習は九州産業大学で行う予定です。指揮者は、九州交響楽団にお願いすることになると思いますが、九州産業大学との間で分担金の話も進んでいます。楽器も購入し始めており、2020年頃からスタートできればと考えています。そのため寄付金の協力もお願いしているところです。

100周年に向けて、本学がさらに進化し続けるため、学生・教職員の皆さんの一層の努力を期待しています。

「THE世界大学ランキング 日本版 2017」における福岡女子大学

Table with 3 columns: Ranking Index, Rank, Score. Rows include Overall Ranking (48th, 59.8), Education Resources (105th, 48.6), Education Satisfaction (70th, 73.6), Education Results (121st, 42.7), and Internationality (7th, 85.7).

※「THE世界大学ランキング 日本版」は、イギリスの高等教育専門誌「Times Higher Education [THE]」がベネッセグループの協力のもと作成したもので、THEが今後力を入れる国別の大学ランキングとして、日本版はアメリカ版に次いで2カ国目。

改革と創立100周年事業とその後

建学の精神「次代の女性リーダーを育成」 福岡女子大学は継続的な発展を目指して、ユニークな改革を展開しています。

本学は、2011年に国際文理学部へ改組後、さまざまな改革によって大学力を向上させてきました。さらに、100周年とその後に向けた将来構想を掲げ、継続的な発展を目指しています。

創立100周年事業とその後の構想

- **100周年とその後の将来ビジョンの共有**
100周年を迎えるにあたって、100周年後の未来に向けた将来構想を発表。
- **2つの研究センターを設立**
「女性リーダーシップセンター」「国際フードスタディセンター」(両センターとも仮称)を設立。
- **文理統合型教育・研究のさらなる推進**
文理統合型コース・副専攻の拡充、大学院では研究の充実に推進。
- **教職協働の促進**
教員と職員とが目標を共有し協働して業務を遂行する「教職協働」を促進。
- **福岡女子大学オーケストラを結成**
- **世界大学ランキングの向上**
「THE世界大学ランキング日本版2017」において、総合ランキング48位、国際性7位を獲得。さらなる向上を目指し改革を継続。



地域やアジア・世界の女性に開かれた交流拠点としてのキャンパスを整備。(2010~2017年度まで8年をかけて整備)

教育の多様性

- **女性リーダーの育成**
 - **体験学習の導入**
実社会での体験を通して、自主性や社会適応能力を身につけることを目的とする体験学習。国内外多数のプログラムを用意し、学生の学びの幅を広げる。
- **学生が大学運営に参加**
教職員委員会、寮委員会、百周年準備のための部会など、大学の運営に学生が直接参加することで、学生目線のアイデアの採用や学生への社会経験の場を提供。
- **社会人を対象とした女性リーダー育成事業の実施**
社会人学び直し大学院プログラム「イノベーション創出力を持った女性リーダー育成プログラム」の開講や、福岡県事業の「女性トッパーリーダー育成研修」に参画するなど、女性リーダー育成のノウハウを蓄積。
※今年度の「イノベーション創出力を持った女性リーダー育成プログラム」の開講についての報告を15ページに記載
- **本学で伸ばせる能力の実感に変化**
学生アンケートによる意識調査において、本学の教育の特徴である「チームワーク・リーダーシップ」「コミュニケーション力」「外国語運用能力」を本学の教育の中で伸ばせると実感している学生が大幅に増加。
「本学で伸ばせる能力」について 2012年と2016年におけるポイント差

2017年度 プログラム数
国内10、海外3

スリランカ
「Exploring "Development"」
プログラム

	2012年	2016年	差(ポイント)
● 理論的思考力	11.3	22.8	+ 11.5
● チームワーク・リーダーシップ力	10.3	34.4	+ 24.1
● コミュニケーション力	46.5	62.5	+ 16.0
● 外国語運用能力	28.6	66.1	+ 37.5
● 学問力	10.3	24.1	+ 13.8

- **感性教育**
 - **女子大美術館の設立**
日常における志・感性教育、精神文化の醸成への活用を目的に美術館を設立。
また、美術館を活用し、アートマネジメント能力を備えた人材育成事業を開催。
- **「薪能」を開催**
日本文化の根源を成す「能」を通じて創造性と感性を育む機会を提供。 ※今年度の開催報告を15ページに記載
- **「生涯学習カレッジ」を開催**
社会人の感性・創造性の育成に向けたシニア中心の生涯学習カレッジを開講。 ※今年度の開催報告を15ページに記載
- **2018年度前期より「感性」についての授業開始**



国際文理学部へ改組以降の改革

国際化

- **キャンパスの国際化**
 - **正規留学生(学部・大学院)の多国籍化**
2017年度、在籍する正規留学生は8ヵ国・地域101名。学部・大学院に所属する学生の約10人に1人が留学生。
- **外国人留学生とルームシェア**
日本人学生は初年次の1年間、外国人留学生は4年間の全寮制制度を導入。留学生と日本人がともに暮らすことで異文化への理解力と国際感覚を身につける。
- **寮での教育プログラム**
毎週月曜日に行う学生の自主企画による全員参加型の寮活動やチーム活動を通し、社会性やチームワーク力を培う。
- **「English Time」と「English Day」**
毎朝1時間の「English Time」、週一回の「English Day」を実施。英語を使って寮生活を送ることで自主的に英語力の向上を目指す。
- **海外交流協定校からの留学生の受け入れ**
正規留学生のほかに海外交流協定校から短期留学生・交換留学生あわせて年間50名ほどの留学生が本学で学ぶ。
- **短期留学生受け入れプログラム(WJC)**
日本の若者文化を英語や日本語で学ぶ短期留学生向けプログラム。2017年度は、春季17名、秋季23名が在籍。
- **交換留学**
2017年7月現在の在籍者数/8名
● 同済大学(中国) ● 大連大学(中国)
● 東亜大学校(韓国) ● 釜山外国語大学校(韓国)

学部留学生の国別入学者推移

国・地域	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
中国	22名	18名	12名	17名	12名	10名	6名
韓国		2名	2名	2名	2名	12名	5名
ベトナム			1名	1名	2名	4名	1名
マレーシア				1名			1名
タイ						1名	
アメリカ						1名	
インドネシア							1名
台湾							1名



- **日常のキャンパス内が国際交流の場**
インターナショナルラウンジ等で学生が自主運営する「Language café」では、英語・ドイツ語・フランス語・中国語・韓国語・ベトナム語・インドネシア語(7言語)による学生同士の交流が、活発におこなわれている。
- **高い外国籍教員比率**
2017年度、本学に所属する外国籍の教員比率は約15%。
- **英語教育の充実**
 - **入学後2年間で英語力を強化**
少人数習熟度別でおこなう学術英語プログラム(AEP)を入学後2年間集中的に学ぶ必修科目(15単位)として実施。2,000語程度の英語の論文が書け、15分間英語でプレゼンテーションできる英語力を身につける。また、2年間で計5回以上のTOEFLテストを受けることで、英語力向上の目標の設定と確認をおこなう。



寮での教育プログラム たこ焼きパーティ

教育プログラム日程(基本)

時間帯	月	火	水	木	金
7:40~8:40	イングリッシュ・タイム(ユニット単位)				
19:00~20:00	寮全体活動				

- **学生による寮運営への参加とリーダーシップ**
学生から選ばれるフロアリーダーやなでしこメイト(2年生)など、学生自身が寮の運営や活動方針決定に関わることで、リーダーシップと自主性を発揮。
- **留学支援**
 - **卒業までに約7割が海外留学を経験**
短・中・長期の海外留学を、学生の約7割が卒業までに経験。

留学実績(2016年度出発)

プログラム	研修国・大学数	参加者数
交換留学(中・長期)	9ヵ国・地域/11大学(学部)	22名
語学・文化研修(短期)	8ヵ国	81名
海外体験学習(短期)	3ヵ国	55名
その他(短期)	1ヵ国	5名
		合計 163名

- **奨学金制度**
本学独自の留学奨励金やJASSO(日本学生支援機構)より最近5年間で約3億円の支援を獲得するなど、各留学プログラムへの支援体制を充実させ、留学のチャンスを広げる。
- **English Village**
本学学生への国内留学疑似体験を目的に、「English Village」を開催。期間中は日本語使用禁止。
- **クォーター制(4学期制)の導入**
学生の留学や長期学外学修への参加を容易にし、授業を集中的・効果的に学ぶことを目的にクォーター制を導入。

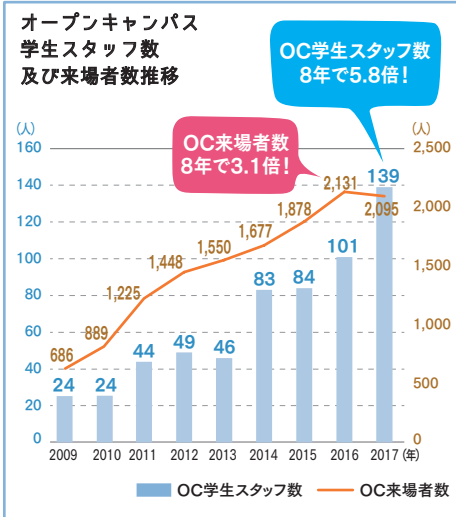


学生広報サポーターが“コンシェルジュ”として活躍しています。

2009年から広報サポーターとして、学生もオープンキャンパスの運営に参加しています。最初は私たちの指示どおりに動くだけでしたが、誘導係から「コンシェルジュ」と呼び名を改め、相手のことを想像して動くようになると、学生の行動が少しずつ変わってきました。また、2015年にリーダー制度を導入してからは、学生リーダーに現場を指揮させ、その結果、皆がより主体的に動くようになっていきました。おかげさまで来場者数も増えており、今では学生が大きな戦力となっています。

また、高校生のアンケートを見ても、広報サポーターが一番印象に残っているようで、彼女たちの活き活きとした姿を見て、本学への入学意欲を高める高校生も多いようです。学生もこの活動による小さな成功体験の積み重ねが自信となり、人としても成長してくれています。

今後学生には、他の広報活動にも、積極的に参加してもらいたいと考えています。



入試・広報・キャリア支援センター 江良 琢巳

広報サポーターインタビュー

高校生の笑顔を見ると、役に立って良かったと思います。

オープンキャンパスでは「コンシェルジュ」として、主に来場された高校生や保護者の皆さんをご案内しています。会場では、来場者の皆さんが不安にならないよう、できるだけこちらから声を掛けるように心がけています。

終わった後には、毎年反省会を開き、改善する工夫をしています。今年は、名前や出身校を書いた名札とは別に、所属するサークルなど、自分たちのアピールポイントを書いた名札を作り、来場者の皆さんに声を掛けてもらいやすい名札をつくりました。

また、近年はオープンキャンパスのなかで、来場者の皆さんと留学生との交流会を企画していて、留学に興味を持つ高校生の方などに大変好評をいただきました。

笑顔でお礼を言ってもらえると嬉しいです。私たちも広報サポーターとして活動することでリーダーとしてのスキルが身に付くなど、多くのことを得られています。

広報サポーターリーダー組織

組織体制

2015年度から実施。今年度1年生6名、2年生2名、3年生3名の11名

主な活動

- ① オープンキャンパス、キャンパス見学&相談会の企画運営
- ② 学内広報誌「glover」の制作
- ③ 広報サポーター募集活動
- ④ 広報サポーター全体ミーティングの実施
- ⑤ 大学広報全般への協力



2017年度 広報サポーターリーダー

- 左から 武下 早織さん(1年)
ディッキー・ソフィア・ハナさん(2年)
尾形 凜さん(3年)
榎木 由季子さん(1年)
水津 菜佑子さん(1年)

今年企画した 広報サポーターの アピールポイントを 書いた名札



events

2017.7.30 2017 夏のオープンキャンパスを開催しました。

7月30日(日)、「2017夏のオープンキャンパス」を開催しました。学生広報サポーターの熱心な活動の成果もあり、今回も、高校生や保護者など、多くの方にご来場いただきました。

- 来場者数 2,095名 (高校生・保護者・高校教員等含めた総数)
- スタッフ数 教員 約70名
職員 約50名
学生広報サポーター 139名

学部・大学院全学生1,083名のうち13%が参加
韓国・中国・アメリカ・ベトナム・マレーシア・台湾・インドネシア・タイの8カ国17名の留学生(学部留学生・WJC留学生・交換留学生)もスタッフとして参加

イベント内容

「大学概要説明会」「学科概要説明会」「模擬授業」「研究室見学ツアー」「キャンパスツアー」「寮見学ツアー」「個別相談会」「留学生交流会」「Enjoy!なでしこLIFE(なでしこメイトによる寮生活紹介)」「図書館見学」「サークル紹介」「留学支援・国際交流説明会」「保護者向け特別企画 就職支援説明会」など

プログラム・スケジュール

	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00
大学概要説明会 大学の沿革や、国際文化学部 の学びの特色について説明し ます。 20分	① 9:20~9:40	② 10:30~10:50			③ 13:10~13:30	④ 14:40~15:00		
各学科説明会 (各学科の特色や、コース内容 について説明します。 20分)		① 10:00~10:20	② 11:10~11:30	③ 12:20~12:40	④ 13:50~14:10			
模擬授業 国際教養学科、国際科学科、 国際文化学科、国際言語学 科、健康科学科、看護学 科、健康科学科 30分		① 10:30~11:00	② 11:40~12:10	③ 12:50~13:20	④ 14:20~14:50			
留学支援プログラム(AEP) 10:00~10:30 11:00~11:30 12:00~12:30 13:00~13:30 14:00~14:30 15:00		① 10:00~10:30	② 11:00~11:30	③ 12:00~12:30	④ 13:30~14:00	⑤ 14:30~15:00		
寮生活プレゼン& 留学生交流会 寮生活についての在学生プ レゼンや、本学の留学生と 楽しく交流できる交流会 プログラムを開催します。 30分	① 9:45~10:15	② 11:00~11:30	③ 12:15~12:45	④ 14:00~14:30	⑤ 15:15~15:45			
個別相談コーナー 9:20~16:00		① 10:00~10:30	② 11:00~11:30	③ 12:00~12:30	④ 13:30~14:00	⑤ 14:30~15:00	⑥ 15:30~16:00	



公立大学法人 福岡女子大学
FUKUOKA WOMEN'S UNIVERSITY

Open Campus

夏のオープンキャンパス

2017 7月30日(日) 受付9:00~(随時) 午後からの参加もOK!
入場自由 申し込み不要

- 大学概要説明会
- 各学科説明会
- 模擬授業
- 研究室見学
- 個別相談コーナー
- 外国人留学生との交流会
- 寮見学ツアー&在学生プレゼン
- キャンパスツアー
- 保護者向け就職支援説明会
- 留学支援・国際交流説明会

福岡女子大学
Tel: 092-692-3100(国際) Fax: 092-692-3219
http://www.fwu.ac.jp/

international

2017.7.19
8.3

WJCプログラム自主研究発表会および2017年度春学期 WJCプログラム閉講式が行われました。

WJC = The World of Japanese Contemporary Culture Program

7月19日(水)に、WJCプログラムの自主研究発表会を開催し、WJC留学生在が昨年9月から約1年間、日本に関して興味のあるテーマのもと研究を行った結果を発表しました。テーマは「食文化」「ジェンダー」「福岡の祭り(博多祇園山笠等)」など、多種多様。発表は日本語と英語で行われました。

そして8月3日(木)には、WJCプログラム2017年度春学期の閉講式を挙行了しました。

修了生は約1年間、日本現代文化や博多の歴史などについて学び、寮では学部生と共同生活をしながら交流を深めてきました。留學生は母校に戻りますが、今後は本学の親善大使として、世界中で活躍してくれることを期待しています。

9月には新たに23名のWJC留學生を迎えます。WJCプログラムのさらなる発展が本学の国際化を後押しします。



WJC留學生インタビュー

●福岡に留学した1年間の思い出を教えてください。

正直にいうと、留学する前に、福岡のことについてほとんど何も知りませんでした。実際に来てみると、交通機関が便利だし、人々が親切で、食べ物もおいしい。留学の間、日本中いろいろなところを訪問しましたが、福岡が最も気に入っている街です。

留学の間よく出身国を聞かれ、「ベルギーです」と答えたら、「あ、チョコレート天国ですね」とか「ビールがおいしいですね」という返事が多かったんです。ベルギーは小さい国で、そんなに知られていないと思っていたから、チョコレートとビールが知られているのは、とても嬉しかったです。

福岡女子大学は、あまり大きくないですが、だからこそ心地のいいところだと思います。キャンパスが綺麗だし、カフェでのんびりしたり、図書館もとても雰囲気の良い場所だから、1年間ここで過ごせたことはとても楽しい思い出です。



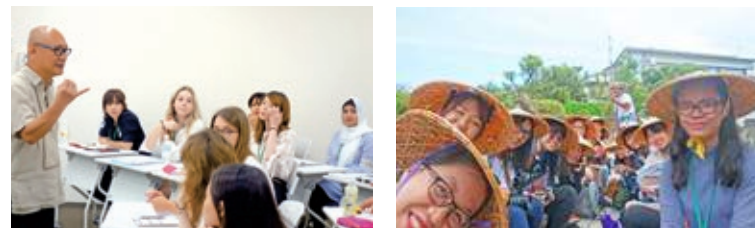
メネンス・エリン(Mennens Eline)さん
ベルギー ルーヴァン大学出身

2017.8.1
-8.12

CASEUF 国際教育サマープログラムを実施しました。

本学のイニシアティブによる「ASEAN-EU域内大学コンソーシアム福岡(CASEUF)」のメンバー10大学(本学含む)から32名の学生を受入れ、8月1日(火)~8月12日(土)までの2週間、サマープログラムを実施しました。参加学生の出身国は10カ国に亘り、学生たちには国境を越えて篤い友情を育む有意義な夏となりました。

このプログラムはすべて英語で実施され、講義はメンバー大学であるルーヴァン大学(ベルギー)とアテネオ・デ・マニラ大学(フィリピン)の教授が担当しました。本学学生にとっては、国際的な環境の下で学ぶ、貴重な学内留学体験となりました。



international

2017.7.11

2017年 秋季出発交換留学出発式を開催しました。



7月11日(火)に、2017年秋季から半年間または1年間の交換留学に出発する学生の、出発式を開催しました。

多くの教職員や本学学生も出席したこの式では、19名の交換留學生たちが、1名ずつ留学中の学習目標や抱負を発表しました。続いて、交換留学経験者が自身の留学体験を語り、良いアドバイスとなりました。

式の最後には、副学長が激励のメッセージを送り、交換留學生にとっては改めて留学へのモチベーションを高める機会となりました。

2017.7.30
- 8.13

EAT 2017 (アジア食文化プログラム) が開催されました。

EATプログラムは梨花女子大学校(韓国)、マヒドン大学(タイ)と本学の3大学の共催でアジアの食文化について幅広く学ぶプログラムです。2017年度は、総勢31名の学生が参加し、第1週目をマヒドン大学で、第2週目を本学で実施し、さまざまな講義や体験を通して学びを深めました。

今年のテーマは【屋台(street food)】。屋台に慣れ親しんだ3国を比較したり、実際に体験したりすることで、新しい視点で学ぶ良い機会となったようです。また期間中、共に寮生活をする中で、参加者同士の交流を深め、お互いの文化を理解する貴重な機会となりました。



EAT2017参加学生レポート



食・健康学科1年
才田 真寧さん

私はこのプログラムで、タイ、韓国の学生とともに2週間を過ごし、言語も文化も違う人々との生活の中で、講義で学ぶ内容だけではなく、多くのものを得ることができました。講義やグループ活動を通して、国境を越えてたくさんの友達ができ、日本人の学生同士もより仲を深めることができました。

特に、母語の違う友達とコミュニケーションをとるために不可欠だった英語は、実際に言葉にして使うことで上達するものだと感じました。このプログラムに参加して、もっと英語を使って外国のことについて知りたいと感じ、また、日本のことも知ってもらいたいと思いました。英語力をはじめ日本についての知識など、自分に足りないものを身に付け、今後につなげていきたいです。

outreach

2017.6.24 2017年度福岡女子大学
アートマネジメントアドバンス講座が開講しました。



6月24日、福岡女子大学美術館の資源の活用を図る人材育成を目的とした「2017年度 福岡女子大学美術館アートマネジメントアドバンス講座」が開講しました。

前半(6~9月)はアートマネジメントのスキルアップのための発展実践を目的としています(全5回)。受講生たちが2つのグループになり、福岡女子大学美術館所蔵作品を活用した企画を立案し、8月にそれぞれ企画を実施しました。

企画立案にはじまり、招聘する講師との交渉や参加者の募集など、受講生たちにとって、アートマネジメントを学ぶ大きな機会になりました。

① 8月18日(金) ▶
19:00~21:00

受講生実践企画
「出会いは
夜の美術館だった」



② 8月19日(土) ▶
13:00~15:00

受講生実践企画
「未来へのおくりもの
いこうよ*びじゅつかん
えんげき編」

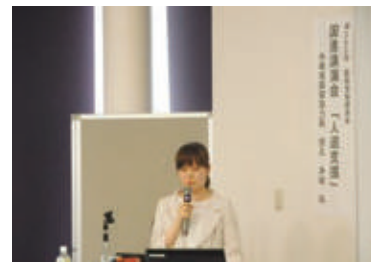


2017.6.29 「人道支援」をテーマに国連講演会を開催しました。

6月29日(木)に、日本国際連合協会福岡県本部と共催で、国連講演会を開催しました。

本講演では、人道支援課事務官の田北多絵氏に、昨年初めて開催された世界人道サミットを含む、近年の人道支援をめぐる国際社会の状況と日本の取り組みについて、お話いただきました。

講演後も、出席者からたくさんの質問がなされ、活気あふれる講演会となりました。



2017.7.29 香住丘校区夏まつりに参加しました。

7月29日(土)にかしいかえんで開催された「第25回香住丘校区夏まつり」に、留学生を含む学生たちが浴衣姿で参加しました。これは、香住丘公民館を始めとした校区の皆さまのご厚意で、浴衣の貸出・着付をしていただいたものです。また当日は、抹茶とお菓子もご提供いただきました。

会場では、ステージイベントの司会を本学放送サークルが担当した他、合唱同好会がステージ出演、1年生が受付や抽選会などのお手伝いをさせていただきました。これからも香住丘校区の一員として、校区のイベントに参加・協力し、地域の皆さまと交流を深めていきたいと思っております。



outreach

2017.5.13 学び直し大学院プログラム第3期が開講しました。



5月13日(土)社会人学び直し大学院プログラム「イノベーション創出力を持った女性リーダー育成プログラム」が開講しました。

講座は、他者を巻き込み推進していく力でもある、ファシリテーション力を身につけるモジュール1、創造性を磨いてデザイン思考実践のアプローチで課題を創出・設定し、アイデアを共有しながら持続的に実現可能な環境や仕組みを練り上げるモジュール2、受講生自らが持つ課題をイノベーション実践プランとして作り上げるモジュール3の3つのモジュールから成っています。

ワークショップデザインとファシリテーションの短期集中講座も昨年に引き続き開講。今年度より男性も受講可能になりました。ぜひホームページ(「福岡学び直し」で検索)をチェックしてください。

2017.5.20 生涯学習カレッジ2017を開講しました。



5月20日(土)に「福岡女子大学生涯学習カレッジ2017」を開講しました。

大学キャンパスの他、学外をフィールドとし、「住民と大学が共に学ぶアクティブな学習の場」として、学びの中に「遊び心」を取り入れた本プログラムは、今年で3年目を迎えました。

本年度も「感性」を学習の柱とし、前半7回は「文化芸術と地域の歴史」、後半6回は「食文化」をテーマに、受講生の方々は大学の講義にとどまらない学外での学びを体感しています。



2017.5.29 第二回
福岡女子大学薪能を
開催しました。

5月29日(月)に、本学学生会館において、「第二回福岡女子大学薪能」を開催しました。これは、福岡女子大学美術館創設を始めとする「感性教育」の一環として、本学国際学友寮 などで生活する留学生や1年生を中心に、地域の方や卒業生もお招きして行ったものです。

当日は、今井明副学長、江島玲子同窓会副会長、花田茉依香さん(国際教養学科1年)、胡越児さん(環境科学科1年)による火入れ式も行われ、会場は厳粛な雰囲気になりました。

また、人間国宝 山本東次郎氏による狂言「素袍落」や観世喜正氏による能「土蜘蛛」が上演され、約400名の参加者は約2時間にわたり華麗な舞を堪能しました。



受動喫煙のない“SMOKE-FREE CAMPUS”へ



福岡女子大学は
2018年4月から
学内完全禁煙

Fukuoka Women's University will be a SMOKE-FREE CAMPUS
Beginning April 1, 2018.



キャンパス完全禁煙宣言

福岡女子大学は、学生に喫煙習慣を持たせないこと、また、教職員の喫煙による健康被害を防止することを、大学としての責務と考え、新キャンパスの整備が完了する2018年4月から、キャンパス敷地内を完全禁煙とすることを宣言し、教職員・学生など、全構成員を挙げて、この実現に取り組んでまいります。

「福岡女子大学 国際化推進基金」ご寄附へのお礼とお願い

2011年4月の新学部(国際理理学部)の発足に伴い、その教育理念をより強力に実現するため、大学の国際化を積極的に推進することを目的とした「福岡女子大学 国際化推進基金」を創設し、2010年12月から寄附金の募集を開始しております。

これまでに、本学卒業生の皆様を始めとして多大なご協力・ご支援を賜っており、ご寄附をいただいた皆様に厚くお礼申し上げます。

本号では、2017年3月1日から8月31日までにご寄附を頂いた皆様のうち、掲載についてご了解を頂いた方々のご芳名、寄附金額をご紹介します。

今後とも、ご支援の程、よろしくお願い申し上げます。

1. お名前・寄附金額の掲載についてご了解いただいたご寄附者様

●5万円以上30万円未満

木村 徳子 様 (1)

●5万円未満

久保山君枝 様 (7) 山崎三三代 様 (6) 櫻井 純子 様 (3) 谷川多恵子 様 (3)

※()内の数字は、累計寄附回数(回目)です。

2. お名前のみ掲載についてご了解いただいたご寄附者様

川北テル子 様 (7) 政野 照子 様 (4) 緒方 明子 様 (1) 宮藤千鶴子 様 (2)
 新開 章司 様 (6) 元岡美知子 様 (2) 福永 洋子 様 (1) 甲斐千里 様 (2)
 中島千代子 様 (6) 前田 幸美 様 (3) 竹元 明子 様 (5) 山本ルミ 様 (3)
 矢部千壽子 様 (7) 坂田 正子 様 (2) 赤木多紀子 様 (7) 藤田美奈子 様 (2)
 小倉 茂美 様 (2) 八木 良子 様 (4) 諸富美那子 様 (3) 小林タミ子 様 (3)
 江頭 勝子 様 (4) 石橋千穂子 様 (3) 早瀬 仁美 様 (2) 飯田 裕子 様 (1)
 豊福 直子 様 (1) 諫山 安恵 様 (1) 後藤 禮子 様 (6) 神尊恵美子 様 (1)
 宮田三佐枝 様 (4) 矢野美美子 様 (5) 吉岡 紋子 様 (4)

※()内の数字は、累計寄附回数(回目)です。

福岡女子大学 国際化推進基金 ご寄附の状況
(2017年8月末日現在)

年 度	寄附件数	寄附金額
2017年度	83件	1,184,000円
総 計	1,475件	36,785,000円

※総計は2010年度から2017年度まで

「福岡女子大学 国際化推進基金」についての詳しい情報については、大学ホームページをご覧ください。下記のお問い合わせ先までご連絡をお願いします。

福岡女子大学
国際化推進基金に関する
お問い合わせ先

公立大学法人福岡女子大学
福岡女子大学 国際化推進基金事務局
〒813-8529 福岡県福岡市東区香住ヶ丘1-1-1
Tel. 092-661-2411 (代表) Fax. 092-661-2420
E-mail fukujokikin@fwu.ac.jp

academic life

日本繊維製品消費科学会 学会賞論文賞を受賞して

■ 日本繊維製品消費科学会年次大会 2017.6

2017年6月に京都で開催されました日本繊維製品消費科学会年次大会において、学会賞論文賞を受賞しました。対象になりました論文は、医療用ユニフォームに対する評価を色彩やデザインの側面、さらには着用者やそれを取り巻く人々に与える心理効果の側面から多角的に検討したものです。実際の医療現場において実験を実施して効果の検証を行ったことから、得られた成果は、医療現場におけるユニフォーム開発に貢献するものとして、その有用性及び活用性を評価いただきました。本研究を進めるにあたりまして、ご協力いただきました病院関係各位ならびに患者の皆様にご心より感謝申し上げます。この賞を励みに日々精進して参りたいと思います。



環境科学科
庄山 茂子 教授



フランス語スピーチコンテストで入賞

■ 第30回初心者のための九州フランス語コンクール 2017.7.2

7月2日(日)にアンスティチュ・フランセ九州で行われた「第30回初心者のための九州フランス語コンクール」で執行みゆきさんが5位、上野瑠音さんが9位に入賞しました。



国際教養学科2年 執行 みゆきさん

スピーチコンテストの練習では発音や質疑応答の対策をしました。そのおかげで自分の発音も大きく変わりフランス語の学習の意欲を高めることができました。丁寧な指導をしてくださった先生方、支えあって練習をした先輩のおかげで大きく成長することができ、素敵な経験となりました。



国際教養学科3年 上野 瑠音さん

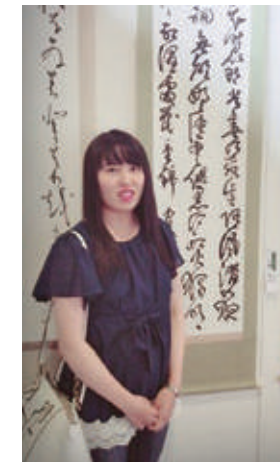
1年生からフランス語を勉強していましたが、最初は決して得意ではありませんでした。しかし、取り組むうちにもっとフランス語が好きになり、自信もついてきました。この経験を誇りに、これからもフランス語の勉強に励みたいと思います。

読売女流書法展で「秀逸」を受賞

■ 第33回 読売女流書法展 2017.6.27-7.2

入学当初、先輩方の躍動感ある作品を見て感動し、書道部に入部しました。初心者として入部し、草書や行書の書き順やどこまでが一字かわかりませんでしたが、練習を重ねて四年目の今年、読売女流書法展で「秀逸」を受賞することができました。

春に選考が行われるので、杜甫の「春夜雨喜」という漢詩を選び、お手本をもとに自主練習を重ね、春休みに顧問の先生のもとを訪ねて、一日かけて応募作品を仕上げました。受賞を願っていましたが、予想よりも良い評価をいただき、今までの練習の成果が表れたので、本当に嬉しかったです。



国際教養学科4年
小柳 里奈さん

